

基本情報

- ◆ 認定年度: 2019(令和元)年
- ◆ 設置時期: 2019(令和元)年9月
- ◆ 実施部局: iPS細胞研究所
- ◆ 相手方機関: グラッドストーン研究所(米国)
- ◆ 設置タイプ: アウトバウンド型
- ◆ 設置目的: 世界を先導するiPS細胞研究の更なる発展及び海外で活躍できる若手研究者の養成
- ◆ 設置場所: グラッドストーン研究所(米国・サンフランシスコ)
- ◆ 活動内容: iPS細胞に関連する最先端研究を推進し、若手研究者の育成や留学生獲得を図る。

活動による大学全体への波及効果

- 世界を先導する最先端研究に携わることによる、研究者・学生への教育研究効果
- 部局の範囲を超えて、大学と拠点連携大学(UCSF)との国際共同研究などの新プログラムの開拓

【2026年度】

- 近隣大学等の学生を対象としてインターンシップ教育を実施する。
- 他研究室や現地企業との共同研究を進展させ、多能性幹細胞に関連する機能への理解を深める。
- 産学へのiPS細胞技術のさらなる波及を図る。

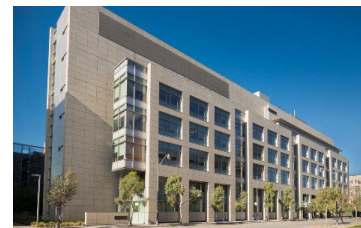
活動概要



山中伸弥(PI)



共同研究・協働運営



Shinya Yamanaka (PI)

GLADSTONE
INSTITUTES

ビジョン:

- ✓ グローバル人材の育成と、国を超えたボーダーレスイノベーションの促進

活動概要:

- ✓ 多能性幹細胞の増殖・分化におけるタンパク質翻訳制御機構に関する共同研究の実施
- ✓ 研究者・学生の国際交流
- ✓ 国際交流プログラムの実施(シンポジウム、ポスドクトレーニングプログラム)

運営体制:

- ✓ 部局で雇用した准教授をクロスアポイントメントにて拠点に常駐
- ✓ 部局で雇用した研究員を拠点に常駐させて運営

2025年度の主な活動実績

① 応用物理学会秋季学術講演会にて研究成果を発表

- 2025年9月7-10日、応用物理学会秋季学術講演会（名城大学、名古屋）でのシンポジウム“外界からの刺激作用による細胞制御：刺激作用の伝達から制御効果の発現までを理解する”で招待講演（オンライン）を行い、「多能性幹細胞を用いたタンパク質翻訳開始制御機構の解明」のタイトルで研究成果を発表した。また他の参加者と活発な国際的視点での意見交換を行なった。



② 研究および人材育成環境をさらに充実

- 本拠点の研究をさらに加速させるため、研究員および研究補助員の充実を図り、複数名の現地研究補助員を採用した。新規採用者全員が大学院への進学を目指しており、研究を通じたグローバルな人材育成を進めている。
- 本拠点の在籍研究員のひとりが、米国の大規模公的機関のスカラシップに採用された。本拠点での研究が新たなキャリアパスにつながった。
- 新たな共同研究をグラッドストーン研究所内の研究室と開始した。
- CiRAセミナー（2025年7月）およびミニシンポジウム（2026年1月）において、拠点での研究内容を発表し、CiRAをはじめとする国内研究者と意見交換を行った。

